

委託事業実施内容報告書
令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名： 学校法人聖心女子学院

1. 事業の概要

事業名称	大学を拠点とした地域日本語教室の展開
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	聖心女子大学は、東京の渋谷区にある。渋谷区は人口の4%強が外国籍住民であるが、大学が渋谷区の端にあるため、隣には港区があり、8%弱が外国籍住民という状況である。渋谷区は、日本語教育のニーズは高く、東京ボランティアネットワークへの学習者からの問い合わせは非常に多いと言われているが、区には国際交流協会がないというのが実情である。課題は2点で、日本語を学べる教室の数が十分とは言えないこと(課題A)、ボランティア関係者の高齢化(課題B)である。文化庁助成の初年度となる1年間の取り組みを終え、地域の実情や課題を地域とさらに連携して開催できた。日本語教室に関する問合せ等も増え、地域のネットワークを活用し、実情や課題を把握しつつ対応した。また、高校生・大学生への参加を積極的に促したことで、ボランティア養成講座でも世代間での意見交流が生まれ、若い世代にとっても日本語教室の現場の声を聞きながら学習できる機会となった。具体的な活動は以下に述べる。
事業の目的	1、日本語教室の運営 大学内で教室を安定的に運営することで、学習者に学びの場を提供するしつつ、若い支援者を育てることを目指す
本事業の対象とする空白地域の状況(空白地域を含む場合のみ記入)	該当なし。
事業内容の概要	前半はコロナのため運営ができず、①と②については後半のみ、ZOOMを用いて予定の半分を実施した。 ①日本語教育の実施 大学内に地域向け日本語教室を運営した。初級レベルの日常会話を目標とした。2コマワンセットとして、1コマ目は日本語教師が教室形式で教え、もう1コマは学生ボランティアとの交流型の授業を実施した(講師は現場にいて指導)。 ②日本語教育を行う人材の養成・研修の実施 ボランティア養成講座を運営した。広尾に近い目黒では、すでに「さぼうと21」が体系的な講座を運営しているため、連携を密に取って、開講する講座内容が重ならないよう調整した。
事業の実施期間	令和2年 5月～令和 3年 2月 (10か月間)

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	萬浪絵里	港区日本語教育コーディネーター
2	池畑雄太	渋谷区社会福祉協議会ボランティアセンター
3	児野美晴	東京都国際交流委員会
4	矢崎理恵	さぼうと21
5	和泉智恵	日本語教室講師
6	中川美保	日本語教室講師
7	岩田一成	聖心女子大学日本語日本文学科 教授
8	道正伸久	聖心女子大学 社会連携課次長
9	猪野純恵	聖心女子大学 社会連携課事務



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和2年8月24日(土) 10:00～11:30	1時間30分	オンライン会議	萬浪絵里／池畑雄太／児野美晴／矢崎理恵／和泉智恵／中川美保／岩田一成／道正伸久／猪野純恵	1. 運営委委員の皆様のご紹介 2. 事業概要の説明 3. 各種講座のご案内 4. 意見交換会 5. 事務連絡
2	令和3年2月22日(月) 10:00～11:30	1時間30分	オンライン会議	萬浪絵里／池畑雄太／児野美晴／矢崎理恵／和泉智恵／中川美保／岩田一成／道正伸久／猪野純恵	1. 2020年度活動報告 2. 2021年度活動予定 3. 本学活動へのご意見・ご要望

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	計画通り、運営委員に港区の日本語教育担当者、渋谷区社会福祉協議会ボランティアセンター、東京都国際交流委員会、難民支援のための社会福祉法人さぼうと21の関係者が参加して下さった。運営委員会では、各団体の立場から助言をいただき、建設的な議論ができた。特に運営方法で迷っていることが多く、他団体のやり方を聞くことは非常に参考になった(募集の方法や、その際の条件など)。また参加者募集や広報では各団体が協力してくださり、少しずつ連携体制ができつつある。聖心女子大学の日本語教員課程の学生も定期的に関わってくれた。これまで聖心が単独で行ってきた教室より、地域色が強く出てきたのではないかなと言える。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	岩田一成、和泉智恵、中川美保の3名は運営に関わる中核メンバーであり、運営委員会に参加している。この3名は少しずつ役割分担をしつつも、実質上すべての企画(日本語教育の実施、日本語教育を行う人材の養成・研修の実施、日本語教育のための学習教材の作成)に関わった。聖心女子大学が事務面でサポートに入っている。
----------	--

3. 各取組の報告

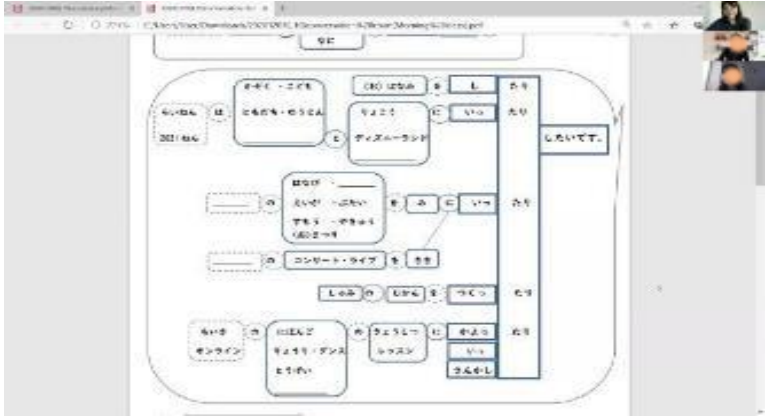
日本語教育の実施【活動の名称： 初級教育における学校型と交流型の連携 】										
取組の目標		日常生活に必要な初級レベルの日本語会話能力を育成する								
内 容		ゼロ初級～初中級の学習者を対象に、講師が行う学校型の授業（90分）と学生との交流型の活動（90分）をワンセットとしてそれを後期10回行った。								
実施期間	令和 2年 9月28日～令和 2年 12月 7日				授業時間・コマ数	1回 1.5時間 × 20回 = 30時間 ※新型コロナウイルス感染拡大のため30時間のみ実施。計画変更についての申出書提出済。				
対象者	聖心女子大学近隣在住の外国籍住民				参加者	総数 26人 （受講者 11人、指導者・支援者等 15人）				
カリキュラム案活用	『カリキュラム案』の「生活上の行為の事例」から、場面を参考にして授業に対応した。授業は、学習者のニーズを踏まえつつトピックシラバスで行った。『ガイドブック』は「言語習得の考え方」を講師と共有し、外国人参加者の状況に合わせ「日本語教育プログラムの具体例」を参考に組み立てた。その際、『教材例集』を活用した。評価の際、『日本語能力評価』から「生活上の行為達成の記録・評価リスト」を参考に評価を行った。									
使用した教材・リソース	自作教材（トピック・場面シラバスによる初級教材）									
受講者の出身 （ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
		1					1			
	インド1人、フランス3人、シンガポール1人、アメリカ1人、カナダ1人、オーストラリア2人									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和2年9月28日(月) 10:40～12:10	1.5	オンライン	9	自己紹介	・ことばの確認 ・会話練習① ・文型確認 ・会話練習② ・CandoCheckフォーム記入		和泉智恵	コーディネーター: 中川美保 学生ボランティア 7名	
2	令和2年9月28日(月) 13:30～15:00	1.5	オンライン	9	自己紹介	・オリエンテーション ・自己紹介＋アイスブレイキング ・色ゲーム（色の言い方を知る） ・ふりかえり		中川美保	コーディネーター: 和泉智恵 学生ボランティア 5名	
3	令和2年10月5日(月) 10:40～12:10	1.5	オンライン	11	学校と会社	・ことばの確認 ・会話練習① ・文型確認 ・会話練習② ・CandoCheckフォーム記入		和泉智恵	コーディネーター: 中川美保 学生ボランティア 7名	
4	令和2年10月5日(月) 13:30～15:00	1.5	オンライン	6	アウトドアについて話す	・活動①－午前のテーマで話す ・動画視聴 ・活動②－今日のテーマで話す ・関連語彙・フレーズ ・色ゲーム＋ふりかえり		中川美保	コーディネーター: 和泉智恵 学生ボランティア 5名	
5	令和2年10月12日(月) 10:40～12:10	1.5	オンライン	10	毎日の生活	・ことばの確認 ・会話練習① ・文型確認 ・会話練習② ・CandoCheckフォーム記入		和泉智恵	コーディネーター: 中川美保 学生ボランティア 7名	
6	令和2年10月12日(月) 13:30～15:00	1.5	オンライン	5	スイーツについて話す	・活動①－午前のテーマで話す ・動画視聴 ・活動②－今日のテーマで話す ・日本理解 ・ふりかえり		中川美保	コーディネーター: 和泉智恵 学生ボランティア 5名	
7	令和2年10月19日(月) 10:40～12:10	1.5	オンライン	7	宅配/デリバリー	・ことばの確認 ・会話練習① ・文型確認 ・会話練習② ・CandoCheckフォーム記入		和泉智恵	コーディネーター: 中川美保 学生ボランティア 7名	

8	令和2年10月19日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	6	発表(故郷の料理)	・モデル紹介 ・発表練習 ・グループ毎の発表×2回 ・全体共有	中川美保	コーディネーター:和泉智恵 学生ボランティア 5名
9	令和2年10月26日(月) 10:40~12:10	1.5	オンライン	7	移動の方法(旅行)	・ことばの確認 ・会話練習① ・文型確認 ・会話練習② ・CandoCheckフォーム記入	和泉智恵	コーディネーター:中川美保 学生ボランティア 7名
10	令和2年10月26日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	5	温泉について話す	・活動①ー午前のテーマで話す ・動画視聴 ・活動②ー今日のテーマで話す ・日本理解 ・ふりかえり	中川美保	コーディネーター:和泉智恵 学生ボランティア 5名
11	令和2年11月2日(月) 10:40~12:10	1.5	オンライン	8	買い物	・ことばの確認 ・会話練習① ・文型確認 ・会話練習② ・CandoCheckフォーム記入	和泉智恵	コーディネーター:中川美保 学生ボランティア 7名
12	令和2年11月2日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	6	買い物について話す	・活動①ー午前のテーマで話す ・動画視聴 ・活動②ー今日のテーマで話す ・日本理解 ・ふりかえり	中川美保	コーディネーター:和泉智恵 学生ボランティア 5名
13	令和2年11月9日(月) 10:40~12:10	1.5	オンライン	8	予防/健康	・ことばの確認 ・会話練習① ・文型確認 ・会話練習② ・CandoCheckフォーム記入	和泉智恵	コーディネーター:中川美保 学生ボランティア 7名
14	令和2年11月9日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	7	お茶について話す	・活動①ー午前のテーマで話す ・動画視聴 ・活動②ー今日のテーマで話す ・日本理解+関連語彙 ・ふりかえり	中川美保	コーディネーター:和泉智恵 学生ボランティア 5名
15	令和2年11月16日(月) 10:40~12:10	1.5	オンライン	8	おすすめの店/ テイクアウト	・ことばの確認 ・会話練習① ・文型確認 ・会話練習② ・CandoCheckフォーム記入	和泉智恵	コーディネーター:中川美保 学生ボランティア 7名
16	令和2年11月16日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	6	体験してみよう	・活動ー午前のテーマで話す ・ロールプレイ①(カフェで注文) ・ロールプレイ②(レストランへ行く) ・色ゲーム+ふりかえり	中川美保	コーディネーター:和泉智恵 学生ボランティア 5名
17	令和2年11月30日(月) 10:40~12:10	1.5	オンライン	6	忘年会/誘う	・ことばの確認 ・会話練習① ・文型確認 ・会話練習② ・CandoCheckフォーム記入	和泉智恵	コーディネーター:中川美保 学生ボランティア 7名
18	令和2年11月30日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	5	発表(新年の過ごし方)	・モデル紹介 ・発表練習 ・グループ毎の発表×2回 ・全体共有 ・ふりかえり	中川美保	コーディネーター:和泉智恵 学生ボランティア 5名
19	令和2年12月7日(月) 10:40~12:10	1.5	オンライン	6	来年したいこと	・ことばの確認 ・会話練習① ・文型確認 ・会話練習② ・CandoCheckフォーム記入	和泉智恵	コーディネーター:中川美保 学生ボランティア 7名
20	令和2年12月7日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	5	一年を振り返る 今年の漢字	・動画視聴「今年の漢字」 ・今年の漢字を日本人とペアで考える ・発表・共有 ・ふりかえり	中川美保	コーディネーター:和泉智恵 学生ボランティア 5名

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第19回 令和2年12月7日】
午前最終回では「来年したいこと」をテーマに実施。コロナ禍で自由に動けなかった2020年を振り返り、2021年にしたいことや目標を話す活動を行った。ことばの確認では、イラストを使い、語彙を導入。会話チャートで会話の形を確認後、グループごとにブレイクアウトルームに分かれ、学生ボランティアと来年の抱負を述べあった。ブレイクアウトルームでは、受講者は語彙表を活用し、学生ボランティアは「やさしい日本語」を駆使して「おしゃべり」を楽しんでいる様子が見られた。毎回の授業同様に、最終的には会話チャートの形から話題は広がりを見せ、交流を深めていた。



○取組事例②

【第18・20回 令和2年11月30日/12月7日】
午後のクラスでは、第18回にそれぞれの新年の過ごし方を紹介する活動を行った(写真左)。受講者だけでなく、学生ボランティアも「やさしい日本語」を使用し、日本の新年の過ごし方を紹介した。まずはブレイクアウトルームで少人数での発表、その後、全体での発表と段階を踏んだことで受講者の緊張もやわらぎ、全体発表ではとても和やかな雰囲気での発表が進んだ。また、受講者と学生ボランティアの双方がお互いの文化を紹介しあうことで、お互いに興味を持ち質問しあう場面も多く見られた。受講者・ボランティア共にオンラインでの活動に十分に慣れた第20回(最終回)では、受講者と学生ボランティアがペアになり「今年の漢字」を考える活動を行った。初級レベルで漢字を全く知らない受講者もいるが、学生ボランティアが受講者の意見を聞いたうえで漢字の候補を出し、ふたりで漢字を選んでもらった。漢字を勉強したことがない受講者にとっても漢字に興味をもつきっかけとなったことが伺えた。また、日本漢字能力検定協会が例年出している「今年の漢字」の発表間近だったこともあり、受講者・ボランティア共に発表が待ち遠しいという声も聞かれた。



(2) 目標の達成状況・成果

各クラス最終回にアンケートを取った結果、午前・午後共に全員から概ね「満足」との回答があった。特に、午後の教材やトピックには全員から「とても満足」の回答を得ている。よって、受講者からの満足度は高く、ニーズに合致した教室活動を実施できていたものと考えられる。また、学生ボランティアからも「とても楽しかった」「心境の変化や気づきがあった」という回答を得ており、活動を通して学びや気づきを促している。参加した学生ボランティア全員が「これからも地域の日本語教室で活動したい」と答えたことは大きな成果と言える。以上のことから、「学校型の授業」と「学生との交流型の活動」を通し、当初掲げていた「日常生活に必要な初級レベルの日本語会話能力を育成する」という目標は達成できたものと考えられる。

(3) 今後の改善点について

新型コロナウイルス感染拡大のため、急遽、対面授業からオンライン授業に切り替えた。オンライン授業に関して、受講者・学生ボランティア共に概ね好評ではあったが、学生ボランティア数名からは「技術的に難しかった」「とまどいがあった」「不安だった」という声も出ている。来年度は、学生ボランティアの事前説明会では、ZOOMの練習会も行なうなどして、不安なく継続的に参加してもらえるよう配慮したいと考えている。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称：日本語ボランティアのための活動基礎講座】										
取組の目標		これから地域日本語ボランティアを始める人が、基礎知識を学ぶこと								
内 容		2.5時間1コマの講座を全7コマ行った。7コマの構成は以下のとおりである。これは文化庁の「生活者としての外国人」に対する日本語教師(初任)研修の項目を参考にした。ただし、近くで一般公開しているさぼうと21が活動基礎講座で扱っているテーマは重複しないように配慮した。特徴的なのは、高校生と大学生だけをターゲットにした教室である。 1、日本語ボランティア入門(高校生・大学生対象) 2、学習方法・言語習得								
実施期間	令和 2 年 11月 14日～令和 3 年 1月 23日				授業時間・コマ数	1回 2.5時間 × 6回 + 2時間 = 17 時間 ※新型コロナウイルス感染拡大のため、17時間のみ実施。				
対象者	日本語ボランティアを始めたばかりの一般市民／高校生・大学生				参加者	総数 196人 (受講者 186人, 指導者・支援者等 10人)				
カリキュラム案活用	『日本語教育人材の養成・研修の在り方について』にある「生活者としての外国人」に対する日本語教育人材をよく考慮し、講座の講師を選んだ。講座内で、『カリキュラム案』、『ガイドブック』、『教材例集』、『日本語能力評価』を直接紹介することはできなかったが、これらを実際に使っている聖心の教室を紹介した。また、「つながるひろがる にほんごでのくらし」を講座内で紹介した。									
使用した教材・リソース										
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
										186
	日本(186 人)									
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和2年11月14日(土) 16:00～18:00	2	オンライン	24	実践紹介	地域日本語教室とは、日本語教育のおもしろさ、どんな外国人が日本にいるの？		岩田一成	発表者:武田詩織 コーディネーター (和泉智恵／中川美保)	
2	令和2年12月12日(土) 10:00～12:30	2.5	オンライン	32	実践紹介	「オルビス日本語教室(茨城県水戸市)の紹介」～多様な学習者を迎える教室～		山田野絵	コーディネーター (和泉智恵／中川美保)	
3	令和2年12月12日(土) 13:30～16:00	2.5	オンライン	32	ベトナム人学習者対応	「ベトナム人学習者の対応を考える」～『ベトナム人に日本語を教えるための発音ふしぎ大百科』の著者が支援のコツを紹介～		松田真希子	コーディネーター (和泉智恵／中川美保)	
4	令和3年1月16日(土) 10:00～12:30	2.5	オンライン	22	実践紹介	「ピナット(東京三鷹・武蔵野)の活動紹介」～大人から子どもまで、活動の広がりとボランティアの役割～		新居みどり	コーディネーター (和泉智恵／中川美保)	
5	令和3年1月16日(土) 13:30～16:00	2.5	オンライン	24	教材研究	「地域日本語教室の教材を考える」～日本語教育専門の本屋さんが、地域日本語教室で使えるおすすめ教材を紹介～		渡辺唯広・大橋由希	コーディネーター (和泉智恵／中川美保)	
6	令和3年1月23日(土) 10:00～12:30	2.5	オンライン	25	実践紹介	「ムスリム女性のための日本語教室」(群馬)&「聖心女子大学日本語教室」(東京)の紹介～女性が多い教室～		和泉智恵・中川美保	無	
7	令和3年1月23日(土) 13:30～16:00	2.5	オンライン	27	習得研究	「言語習得のしくみを考える」～言葉を習得するメカニズムについて基本的なことから最新の見解も含め、専門家が紹介～		奥野由紀子	コーディネーター (和泉智恵／中川美保)	

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

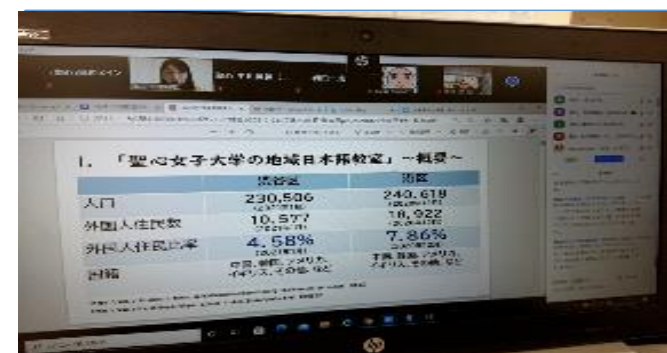
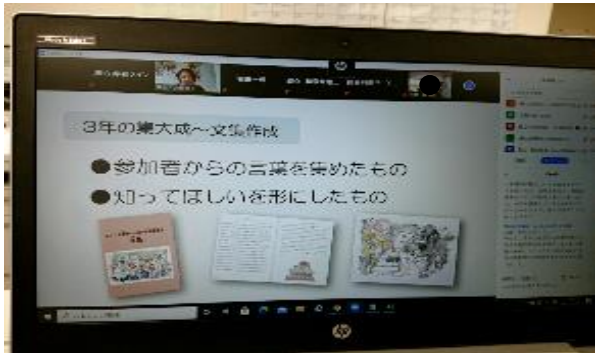
○取組事例①

【第1回 令和2年11月14日】
第1回は対象を「高校生・大学生」に限定し、講座を実施した。オンラインで行ったため、全国からの受講者が集まった(写真左)。講座では、「日本語ボランティアのすすめ」と題して、日本語教育のおもしろさから、地域日本語教室について等幅広く興味を持ってもらう内容とした。また、ゲストスピーカーとして、実際に地域日本語教室でボランティアをしている高校生に体験談を話していただいた。ゲストスピーカーの高校生の熱意やボランティアをはじめた経緯について話していただき、濃い時間であった。



○取組事例②

【第6回 令和3年1月23日】
第6回では、当講座でコーディネーターを務めている和泉から「聖心日本語教室」について、中川から「ムスリム女性のための日本語教室(群馬)」の実践紹介を行った。この回は、それぞれの教室の実践例を紹介しつつ、参加者のニーズが対照的な2つの教室を同時に紹介することで、受講者に「学習者のニーズによって内容も活動も変わる」ことを体感してもらうことを目的とした。結果、受講者からは「既存の教室をそのまま真似すればいいというわけではないということが分かった」や「ニーズに合わせた教室が大切だと思った」などのコメントが大多数を占め、予想以上の効果があった。



(2) 目標の達成状況・成果

全7回、非常に好評でいずれの回も80%以上の参加者が「とても良かった／面白かった」と回答している。また、特に第1回の「高校生・大学生」の講座では、ゲストスピーカーへの評価が高く、年齢の近いゲストが実際にボランティアとして活動している様子に感銘を受け「自分もやってみたい」というコメントがアンケートでは多く見られた。また同回では、小学校の教員を目指す学生から「外国人の子どもたちのサポートに関する知識は教員養成段階で必要だ」とのコメントもあり、これから教員を目指す層にもアプローチできたことは大きな成果である。講座全体に関しては、日本語講座同様に新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインで実施になったものの、アンケートでは「遠方から参加できたのでよかった」「オンラインでもブレイクアウトルームで意見交換できてよかった」等の肯定的な意見が多く見られた。よって、当初掲げた目標である「ボランティアの基礎知識の習得」も達成できたものとする。

(3) 今後の改善点について

アンケートから、ブレイクアウトセッションについて(時間が短い・同じ人とグループになることが多かった)や修了証の発行についての要望があった。ブレイクアウトセッションの長さについては、講師と相談をして決めて行きたいと考えているが、グループ分けについては、講座をまたいで同じ人と同グループにならないよう運営側で調整し改善したいと考えている。修了証については、内部で検討を行う予定である。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

1、日本語教室の運営
大学内で教室を安定的に運営することで、学習者に学びの場を提供するしつつ、若い支援者を育てることを目指す

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

課題として挙げた2点は、日本語を学べる教室の数が十分とは言えないこと(課題A)と、ボランティア関係者の高齢化(課題B)であった。安定的に教室を運営することで課題Aに対処できると考えていたが、そもそも聖心が自主的に行っていた教室と今年度の教室は規模が同程度だったため(クラスの増設はなかった)、教室数が増えたわけではない。今後さらに広く学習者を募って、クラスの増設や曜日の増設など、教育機会の拡大を目指していかなければならない。一方、課題Bについては概ね達成できたと言える。大学生ボランティアを増やしたことにより、ボランティアの年齢層は下げたと言える。また、高校生・大学生向けのボランティア養成講座に参加してくれた学生は、将来的にどこかのタイミングで教室に顔を出してくれるかもしれない。すぐに成果が出るものではないが、将来に種をまく形で気長に続けたい。なお、日本語教育の実施、日本語教育を行う人材の養成・研修の実施の質の検証は、アンケートで測定している。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

カリキュラム案を実践に移すにあたっての課題は、トピック・場面シラバスに慣れていない指導者の問題がある。地域日本語教育では初級を扱う教室が多い傾向にあり、初級教育は文法シラバスだという思い込みが強い。聖心女子大学は、キャリアの長いプロの講師が担当しているため、標準的なカリキュラム案準拠の教育をスムーズに導入することができた。教員が強いコーディネートを行う形で学生に関わっているため、現場で大きな混乱は起こっていない。また、これは学生には先入観がないということも大きな理由だと言える。各ボランティアの自主性にまかせるタイプの教室は、すぐに文法シラバスに戻ってしまうと聞く。やはりコーディネータにある程度の強い権限を持たせた形が理想ではないかと考えている。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

運営会議の際に、港区や渋谷区、東京都の関係者から助言をいただいた。行政課題とすり合わせながら運営を行えた点は、これまでの聖心の日本語教室とは異なる。まだ効果が目に見えるわけではないが、引き続き広報などで協力して運営を行いたい。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

近隣施設(インターナショナルスクール、スーパー、教会等)への案内をはじめ、大学授業内での学生への案内、また、研究所が持つネットワーク(メーリングリストでのメール送付、研究所ウェブサイト・SNS、渋谷生涯活躍ネットワーク・シブカツ、JICA PARTNER、JANICウェブサイト等)を活用して周知・広報を行い、幅広い層へのアプローチを図った。また大学生・高校生への講座での案内では、大学ネットワーク(全国の指定校・姉妹校への案内発信、大学授業での案内等)を活用して、初めて日本語教育に触れる若い層へ案内を行った。事業成果の発信は、聖心女子大学のウェブサイトを通じて行っている。また、次年度は、東京日本語ボランティアネットワークにも新しく団体登録を行い、さらに幅広い層への広報活動を行う予定である。

(6) 改善点、今後の課題について

1、学習者の確保(日本語教育の実施)
地域の各団体と連携しつつ広報を行い、参加者がさまざまな場所から集まってくるような工夫が必要であると感じた。次年度は、月曜日の昼間に行っていた教室を金曜日の夜にも行うことで学習者のニーズを探りたいと考えている。

2、参加者のキャンセル(日本語教育を行う人材の養成・研修の実施)
ボランティア養成講座は、公開後すぐに定員が埋まるほど人気があった。ところが、早くに応募を始めたためか、当日の辞退が非常に多かった。申し込み開始をもう少し遅らせるなど、次年度以降は対応が必要である。

(7) その他参考資料

- ・Japanese Classes 2020 spring開講取りやめ
- ・Japanese Classes 2020 autumn
- ・【高校生】ボランティア養成
- ・【一般】ボランティア養成